

川越市公立保育所のあり方の策定について（案）

これまで本市では、待機児童の解消に向けて、民間保育所等の整備を進めてまいりました。待機児童数については、令和2年4月現在で2名に減少し、近く待機児童が解消されるものと見込んでおります。

現在、本市の就学前児童数は減少傾向にあり、将来、保育施設の定員数が過大となるものと予想されることから、今後は、保育全体の需給バランスを調整することが課題となるものと考えております。

また、本市の公立保育所につきましては、昭和60年までに20園設置し、これまで耐震化工事や必要な修繕等を行いながら、全ての園を維持してきたところですが、現在、20園のうち7園が建築後40年を経過しており、施設の老朽化が進行している状況にあります。

このような就学前児童数の減少や施設の老朽化という課題に対し、厳しい財政状況のもとで、公立保育所の今後の方向性について検討を行ってまいりました。

この方向性に関する本市の考え方につきまして、「川越市公立保育所のあり方」として、その方針を策定しようとするものです。

つきましては、本会議の資料として、

資料 2 - 2 川越市公立保育所のあり方について（案）

参考 1 本市の状況について

参考 2 保育提供区域の見直しについて

のとおりとさせていただきますので、ご意見を賜りたくよろしく願いいたします。

なお、今後につきましては、頂いた意見をもとに、令和3年度上半期を目途に策定を進めてまいりたいと考えております。